

# 外壁タイル面保護透明塗装

溶剤工法

## 施工要領書

2020年10月改訂版



**Seven Chemical**  
**株式会社 セブンケミカル**

## 下 地 処 理

### □ 下地ごしらえ

- ① タイルの剥離部、浮き箇所、ひび割れ箇所は、事前に張り替え又は、エポキシ注入・シーリング材充填などの補修をしてください。
- ② 深目地の場合、目地底入り隅、タイル小口へ刷毛で丁寧に各工程を塗り付け、十分に造膜をさせてください。または、浅目地に埋め戻した場合は、十分に目地モルタルを乾燥後、施工してください。
- ③ シーリング材打ち替え後、シーリング材の上へは養生するか、見切り、塗装は避けてください。  
やむを得ず塗装する場合、現在まで不具合の少ない2成分型アクリルウレタンシーリング材を薦めております。  
PCa 部材、ALCパネル、押し出し成形版では、2成分型アクリルウレタンシーリング材上に塗った後に不具合報告が有りましたので、予め、ポリサルファイドシーリング材、変成シリコーンシーリング材等に打ち替え、塗装は避けてください。極稀にシーリング材の挙動が大きな部分では塗膜の皸やひび割れの発生する場合があります。
- ④ ポリサルファイドシーリング材、変成シリコーンシーリング材の場合、シーリング材の上へは養生し塗装しないでください。やむを得ずシーリング材の上に施工する場合は、次善の策として滲み止めプライマー、「セブンファンデクリヤー I」を施工前日までにシーリング材上へ、刷毛や、筆で塗り付けてください。
- ⑤ シーリング材用プライマーやエポキシ注入材が、タイル表面に付着した箇所には経時後見苦しい黄変ムラとなることがあるので、表面に残らぬよう処理してください。
- ⑥ ワックスや油脂などがタイル面に付着している場合は、洗剤を使用し、十分水洗いを行うか、研磨紙ずり及び、シンナー拭き等により、除去してください。
- ⑦ 目地部、ひび割れ部などからの白華物(エフロレッセンス)は、硬質ブラシやスクレーパー、ヘラなどで、できるだけ除去し、弱酸性液(希塩酸、しゅう酸等)で洗浄除去後、十分水洗乾燥する。尚、酸で目地モルタル、タイル裏面モルタル、及びその他のセメントモルタル、コンクリート面の劣化、強度低下を生じさせないよう、水洗い除去を充分行うなど注意し施工してください。
- ⑧ かびや藻などの微生物汚染を生じている場合は、予め、カビ取り材、アルコール液で殺菌処理してください。
- ⑨ 塵埃や付着物異物などの汚染物は、セブנקリーナー等を用い、汚れを除去した後、十分に高圧水洗浄してください。
- ⑩ 水洗後のタイル面は十分乾燥させてください。

□外壁タイル面保護透明塗装標準工程

工 程	使 用 材 料	希 積 (重量比%)	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> )	工程時間 (時間)	施 工 方 法
1 1回目塗り (半艶/艶有)※	セブンストップ M#30	無希積	0.12 ～0.15	2以上 8以内	中毛ウールローラー
2 2回目塗り (半艶/艶有)※			0.12 ～0.15	24以上 最終生	

※光沢の低い仕上げ「艶消」をご利用時の1回目塗りは、艶有を塗装してください。

塗装についての注意事項

- ① タイルが接地面から張られている場合、接地面近くでは目地モルタル上塗装が白濁する場合があります。
- ② 花壇や擁壁など裏面からの湿気供給が予想される場合に目地モルタル上塗装が白濁する場合があります。
- ③ 斜壁面、笠木部天端などのタイル面では、垂直面に比べ陽射しが強く塗膜不具合の進行が速く進むことがあります。
- ④ セブンストップは、1回目塗装後表面が乾燥しましたら、指触確認し、追いかけて2回目を塗装してください。  
(2回目を翌日塗付すると、リフティングする場合があります。) )

外壁タイル面保護透明塗装施工要領

□はじめに

セブンSシリーズは、透明仕上げの為、別材料を塗装したものや、汚れたローラー、ハンドル、攪拌棒等は使用しないでください。

1回目塗り

- ① 下地が十分乾燥しタイル面に結露のないことを確認してから1回目塗り工程に入ってください。
- ② セブンストップM#30は、基剤/硬化剤を11:1(重量比)とし、基剤、硬化剤を必ず 全量混入し、ハンドミキサー等を使用して均一に混合してください。  
基剤の半艶では、艶消剤が沈降し缶底や縁に層状態になっている場合もありますので、へら・ハンドミキサー等で缶の縁や底部まで十分混合するよう特に注意してください。(小分けする場合、予め十分に攪拌してから計量し小分けしてください。)  
上記の理由から、少量使用の場合は、3kgセットをご利用ください。
- ③ 中毛ウールローラーにより、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう縦・横十字にムラ切りしながら均一に塗り付けます。
- ④ セブンストップM#30塗り付ける際、気温が高く糸引きする場合や、気温が低く泡含みする場合には、「セブンストップM#30専用シンナー」で0～5%程度希釈、均一に混合し塗装してください。

2回目塗り

- ① セブンストップM#30 1回塗り面の乾燥後(通常2時間以上)、2回目のセブンストップM#30を中毛ウールローラーで、1回目同様、2回目を仕上げてください。(当日2回塗出来る範囲で仕上げてください。)
- ② 2回目塗りの半艶・艶消では、艶消し材が沈降していることがありますので、ハンドミキサーで十分 攪拌し、塗棒、へら等で缶のコーナー部の溜まりもキレイに落とし、良く混合してください。  
上記の理由から、少量使用の場合は、3kgセットをご利用ください。
- ③ 仕上げ面は、十分乾燥硬化させるよう、24時間以上乾燥養生してください。

## 施工全般における注意事項

斜壁面や手摺天端面などに施工した場合、垂直面と比べ、日射角度からタイル表面温度の高低差が大きく、平場面のよう降雨の滞留時間も長く、塵埃なども堆積し易く不具合進行が速いことから毎年1度の点検と、不具合部分の補修、更に、5～7年程度でのトップコート塗り増しをご提案いたします。

### 1. 気象条件

#### ① 気温変動での注意

低温(5℃以下)の場合、樹脂の乾燥硬化に支障をきたす場合があるため施工を避けてください。

高温(気温 35℃以上、躯体温度 30℃以上)、及び湿度 80%RH以上の場合、塗膜乾燥、ローラー作業性及び仕上げ性に支障をきたす場合がありますので十分注意してください。

#### ② 風速 5m/sec以上のときは、塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすので、十分風養生対策を行うか施工を避けてください。

#### ③ 塗付け途中、又は乾燥途中に急に雨が降ってきたときは、少なくとも塗膜が乾燥するまで、天幕などで覆って流出しないようにしてください。

### 2. 塗装の注意

#### ① セブンストップ M#30 を塗装すると、目地が濡れ色で濃くなるので、予め、発注者に承認を受けるようにしてください。

#### ② セブンストップM#30 は溶剤で引火性です。臭気等を発生させるため近隣周囲への配慮を十分注意し施工してください。

#### ③ 居室内で使用する場合、塗料扱い時、塗装時には、通気・換気を十分に行ってください。

### 3. その他(保管等)

#### ① 施工前にSDSを確認してください。

#### ③ 材料は、風雨・直射日光を避け、必ず冷暗所で保管してください。

使用材料一覧表

□ 荷 姿

製 品 名	容 量	荷 姿	備 考
2液型アクリルシリコン樹脂 (弱溶剤) セブンストップM#30 艶有・半艶・艶消 ※	12kgセット	石油缶	基剤:硬化剤 11:1
	3kgセット	石油缶	基剤:硬化剤 2.75:0.25
セブンクリーナー	4L	ポリ容器	洗浄剤
セブンファンデクリヤー I	1kg	角缶	シーリング材しみ止め プライマー

※光沢の低い仕上げは、「艶消」もご選択いただけますが、「半艶」を推奨しています。



東京都新宿区西新宿 7-8-13 栗原ビル 3 階

TEL 03(3366)2616 FAX 03(3366)2619

e-mail kimura@seven-chemical.co.jp

e-mail kitajima@seven-chemical.co.jp